

壬申九月廿三日

黒田開拓次官

正院

市中

但通商條約一年分は總て一時大
に減りては酒は條約より日少く
可なり

但し人一個年分は酒は割るべき
多し中月とて酒は多し

壬申十月

五

北海は産物多し、清國通商物中
昆布、東海産干鮫等、輸送金額
莫太、所國産、最大者なり、然れは
近外國人、予に轉賣、利を占、所國民
利スル處些少なり、故に詮此利益ヲ
我に歸セシメ度年来見込候處、既ニ
清國ト條約御束結、人民互ニ通
商差支無之時會ニ際シ、當使用連
根本六兵衛以下數名申合、彼地へ輸送

販賣ノ利益ノ圖リ別紙ニ通仕法相
設ケ施行致度旨願出後筆ニ時宜
ニ有之此度右用達共試験トシテ罷越
既ニ出店セル者共ト合議シ尚實際ノ事
情取調前途貿易切之基本ヲ確定
致候得ハ一般ノ商賈モ同拳ヲ興シ往
御国益ハ勿論北海道ノ殷富ト可相成
奉存候尤交易上ノ損益等一切当使
於ニ關係無之候右御許容上ノ陳
外勢大藏両省ハ其旨即達相成候

様仕度此段奉伺也

壬申九月

黒田守如所

正院

白通
(正院)

但御出度ノ旨ニ奉伺候事

主事ノ旨ニ奉伺候事

開拓使

